

「運動指針」の普及啓発のためのアイデア

2006年7月12日
信藤直樹

1 前提

- 雑誌編集者として、「いかに面白い話題作りをするか」「人々の共感を呼ぶことができるか」という視点で考えました。
- 日本人すべてに共感を与えるような単一の企画はあり得ません。ここでは「生活習慣病に陥る一歩手前の中高年男性」にターゲットを絞ったアプローチ法を考えました。
- なぜなら、中高年女性より男性の方が問題が根深いと推測したからです。「どうせ自分なんてどうなっても構わない」と、後ろ向きに生きている中高年は男性の方がかなり多いのではないのでしょうか？

2 アプローチの骨子

- 自分の人生に後ろ向きになっている人が、簡単に運動を始めるとは思えません。運動指針の内容を具体的に理解させる前に、「自分を心配してくれる人がいる」「自分の生き方を変えてみよう」と感じてもらう必要があります。
- つまり医療費削減のための運動指針ではなく、「あなた自身のため」「あなたの幸せな人生のため」、行政が呼びかけをしているのだという姿勢が必要だと思います。